

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <p>＜教育方針＞</p> <p>◎キリスト教主義に基づく全人教育と“Mastery for Service”の具現化 初等部聖句 「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」ルカによる福音書2章40節</p> <p>＜4つの柱＞</p> <p>◎聖書・礼拝 礼拝や聖書の時間を通じて、人を思いやる気持ち、小さなことに感謝できる心を育む。</p> <p>◎国際理解 英語力を高め、コミュニケーションを楽しみながら、異なる価値観の獲得をめざす。</p> <p>◎全員参加・理解 みんなで主体的に問題解決を図りながら、確かな学力の獲得をめざす。</p> <p>◎本物 文化、スポーツ、芸術、自然に触れる機会を通じて、豊かな感性を育む。</p>	<p>＜2024年度のありたい状態＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教主義に基づく全人教育と“Mastery for Service”の具現化 すべての教員が「キリスト教主義に基づく全人教育」でめざす子ども像を具体的にイメージし、「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながる教育を実践している。 2. 聖書・礼拝 日常生活の様々な場面で、他者に関心を持ち、思いやりの心を注ぐことができる子どもが育っている。 3. 国際理解 英語が好きになるとともに、英語スキルが十分に定着する光の時間が行われている。 4. 全員参加・理解 すべての子どもの思考をアクティブにすることで、確かな学力の定着をめざす授業を展開している。 5. 本物 直接的に人、社会、自然に関わる教育プログラムが系統的に行われている。
<p>2. 児童・生徒獲得の方針(箇条書きもしくは文章で)</p> <p>◎魅力ある学校づくり (上記参照)</p> <p>◎広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試イベントの充実 ・幼児教室訪問継続 ・インター系幼稚園訪問拡大 ・WEBによる広告の拡大 <p>◎入試方法変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B入試の内容変更 	<p>＜2024年度のありたい状態＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての教員が「キリスト教主義に基づく全人教育」における4つの柱を具体的にイメージしている。 2. すべての教員が、志願者確保に高い関心を持ち、積極的に広報活動に協力している。 3. A入試、B入試の実施
<p>3. 中期的な課題(箇条書きで)</p> <p>＜フェーズ2(2022～2024)＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志願者の確保 2. 英語教育の充実 3. 算数教育の充実 4. 教育課程の改善 5. 配慮が必要な児童へのサポート 6. 教員が欠けた場合のセーフティーネット 7. ICT教育の充実 8. 初・中・高間での情報及び学力観の共有 	

【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに ○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 志願者の確保	
③ 英語力の向上	
④ 教育課程の改善	
⑤ 配慮が必要な児童へのサポート	
⑥ 算数教育の充実	
⑦ ICT教育の充実	

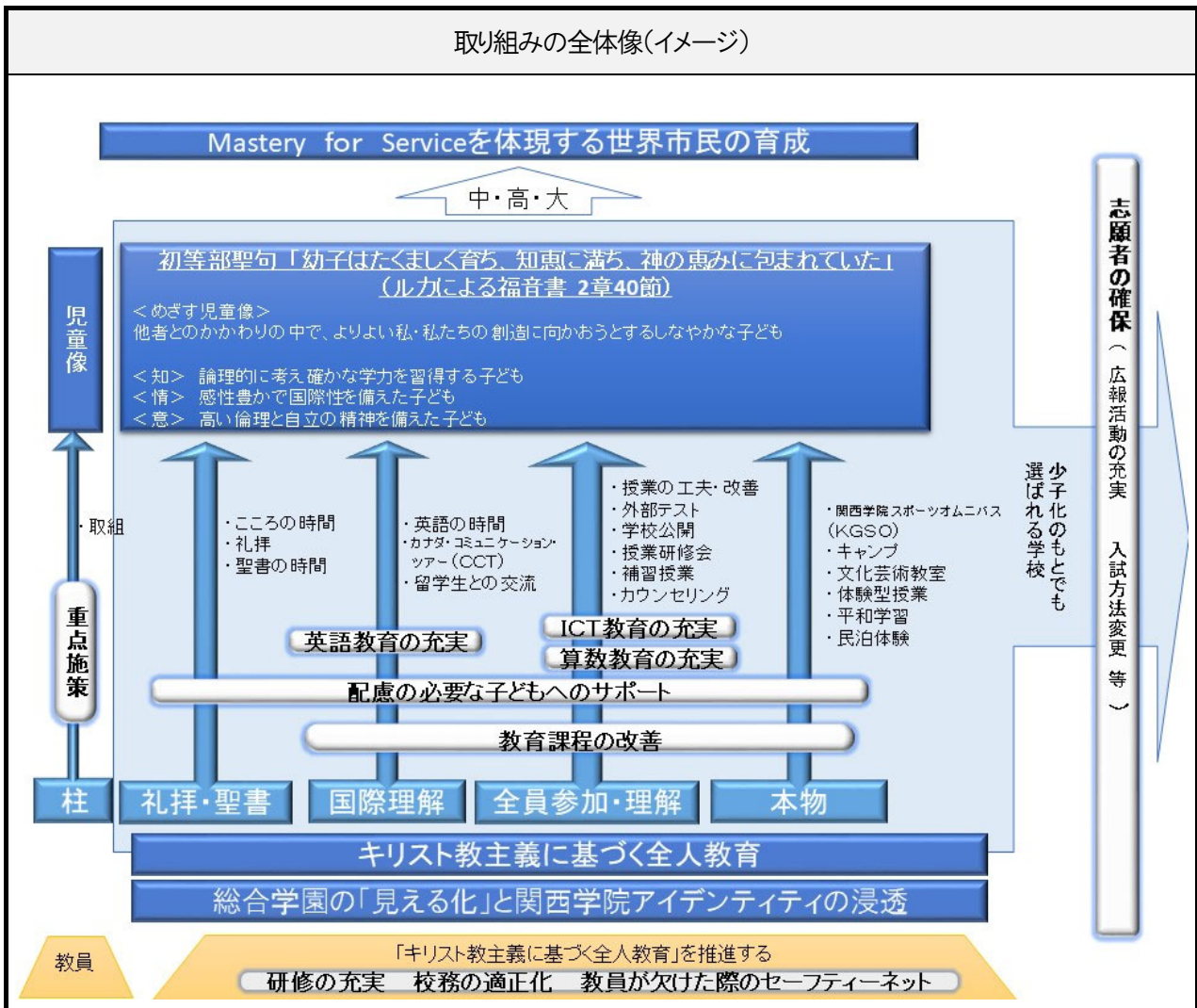
【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- | | | |
|-------------------|--------------|----------------|
| ①スクールモットーの認知度・共感度 | ②志願者数 | |
| ③-1英語授業への関心 | ③-2英語授業での理解度 | ③-3英語の習得 |
| ④教育課程の改善 | ⑤-1不登校児童の割合 | ⑤-2友達や教師との信頼関係 |
| ⑤-3カウンセリング体制 | ⑥-1算数授業への関心 | ⑥-2算数授業での理解度 |
| ⑥-3算数の習得 | ⑦-1教師のICT活用 | ⑦-2児童のICT活用 |

【目標や実績を踏まえたフェーズⅡ(2022～2024)に向けた展望(2022年3月時点)】

<p><1. フェーズⅠの中期計画の取組みにより明らかになった課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は昨年度より志願者が減少した。これには、少子化とコロナ渦の影響が多大であると考察しているが、それでは、来年度の志願者増は望めない。広範囲にわたるPRが必要である。また、ネットを活用した情報発信が不足だったのではと考えている。 ・英語の学力向上については、概ね昨年度と同じ高水準の学習を保っていると考えているが、コロナ渦のため6年生のCCT教育が2019年度から実施されていない。来年度は国内の英語研修施設を利用する予定である。英語教育の仕上げであるCCT教育がカナダで実施できないのは、残念である。 ・本年度、中学部・高等部と連携し、不登校・発達障害の児童生徒への教育について合同研修を行った。これらの児童生徒たちへの共通理解の深化が必要であると感じた。 <p><2. 学校評価の取組みにより明らかになった課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「学校は楽しいですか」保護者アンケート「初等部の教育に満足している」では高い評価を得られた。コロナ渦の中で、児童の健康と安全に細心の注意を払いながら、進めたオンライン授業や学級づくり・授業づくりの工夫や努力が評価されたものと考えている。反面「授業はわかりやすいですか」の質問では、強く思うという回答が減少している。「楽しい」と「わかる」の違いが何か、検証する必要がある。 ・キリスト教教育を土台とする教育方針は児童、保護者ともに理解してもらっている。教育課程・学習指導・学校行事については、コロナ渦の中、制限はあったが、概ね肯定的な回答をいただいている。 ・研修については、これもコロナ渦の制限はあったが、オンラインを活用し、活発な活動ができたと考えている。 <p><3. 上記1, 2を踏まえたフェーズⅡ(2022-2024)に向けた展望></p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願者増へ向け、情報発信の拡大と充実を図らなければならない。ネットによる情報発信、大阪市内の幼児教室への働きかけなどを計画、実行する必要がある。 ・コロナウィルス感染の影響は、暫くは続くと考えられる。その中でより質の高い学習指導を計画、実施し、児童の学力向上を図り、保護者からの信頼を深めたい。
--

取り組みの全体像(イメージ)



以上